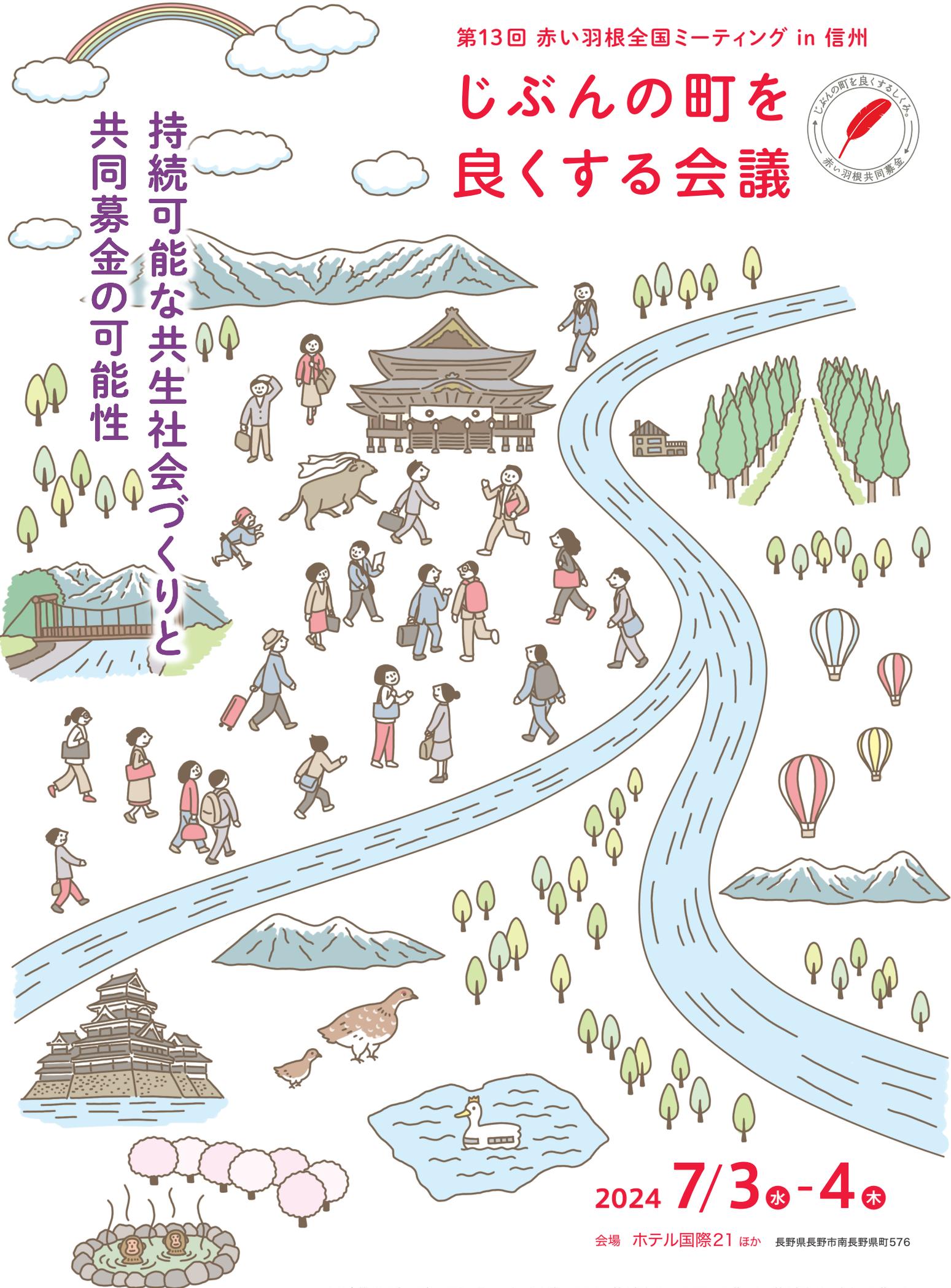


第13回 赤い羽根全国ミーティング in 信州

じぶんの町を 良くする会議



持続可能な共生社会づくりと
共同募金の可能性



2024 **7/3**水 - **4**木

会場 ホテル国際21 ほか 長野県長野市南長野町576

主催 | 第13回赤い羽根全国ミーティング in 信州実行委員会 社会福祉法人 長野県共同募金会 社会福祉法人中央共同募金会
共催 | 社会福祉法人 全国社会福祉協議会 社会福祉法人 長野県社会福祉協議会 社会福祉法人 長野市社会福祉協議会



じぶんの町を 良くする会議



「持続可能な共生社会づくりと共同募金の可能性」

趣旨

赤い羽根全国ミーティングは、共同募金運動に携わる関係者が集い、地域福祉を推進するための共同募金の役割や可能性について話し合い、共生社会の実現につなげていくことを目的として開催します。

第13回目となる今回は、ポスト・コロナの新しい時代に求められる地域社会と共同募金について、対話を通して考え、持続可能な共生社会をともにつくりあげる機会とするために開催します。

主催 第13回 赤い羽根全国ミーティング in 信州実行委員会
社会福祉法人 長野県共同募金会
社会福祉法人 中央共同募金会

共催 社会福祉法人 全国社会福祉協議会 社会福祉法人 長野県社会福祉協議会
社会福祉法人 長野市社会福祉協議会

協力
(予定) 長野県内各市町村社会福祉協議会

後援
(予定) 長野県 長野市

期日 2024年7月3日(水)～4日(木)

会場 ホテル国際21 ほか
〒380-0838 長野県長野市南長野県町576 TEL : 026-234-1111 WEB : <https://www.kokusai21.jp/>

- 参加対象**
- ① 市区町村共同募金委員会役職員・委員等
 - ② 都道府県共同募金会関係者
 - ③ 市区町村社会福祉協議会役職員
 - ④ 都道府県社会福祉協議会関係者
 - ⑤ 共同募金への募金等協力団体、共同募金の助成を受けた活動団体
 - ⑥ その他関心のある方

参加定員 400名(予定)

参加費 6,000円 ※情報交換会参加の場合別途6,000円

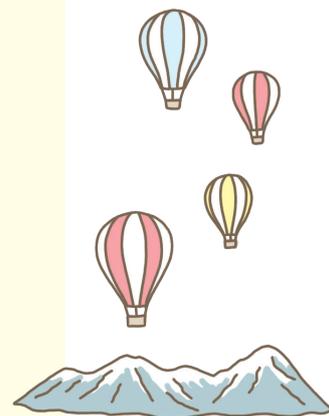
参加申込 以下の参加申込サイトよりお申し込みください。
<https://www.mwt-mice.com/events/hane2024>
◎6月7日(金)17時 受付締切となります。



※申込方法の詳細は参加申込サイトのトップページに記載しております。

参加申込についてご不明な点がございましたら、

p.12 お問合せ先の名鉄観光サービス株式会社長野営業所までご連絡ください。





プログラム (予定)

7/3 水

13:00 ~ 15:25 145分 **全体会**

〈13:00 ~ 13:15〉 15分 ▶ オープニング

〈13:15 ~ 14:15〉 60分 ▶ **鼎談**
「つながりをふたたび ~コロナ後に再構築したい地域とは」

〈14:15 ~ 14:25〉 10分 休憩

〈14:25 ~ 15:25〉 60分 ▶ **事例共有**
「信州から考える赤い羽根」

15:45 ~ 17:45 120分 **分科会**

分科会 A1 基礎 新任職員向け分科会 ~共同募金きほんの『き』~

分科会 A2 戸別募金 共同募金は誰のためのもの?

分科会 A3 活動見本市 地域共生社会づくりのため、協働の輪を広げよう

分科会 A4 広報 「伝える」と「伝わる」は何が違うんだろう?

分科会 A5 SDGs ローカルSDGsと共同募金

分科会 A6 インクルージョン 協働の可能性は∞

特別分科会 都道府県共同募金会正副会長懇談会

18:15 ~ 20:15 120分 **情報交換会**

7/4 木

9:00 ~ 11:00 120分 **分科会**

分科会 B1 基礎 新任職員向け分科会 ~共同募金きほんの『ほん』~

分科会 B2 募金 企業とつながる WIN-WINな関係を築くコツ

分科会 B3 助成 じぶんの町を良くする共同募金の助成とは

分科会 B4 広報・重点助成分野 募金の意味が伝わる広報

分科会 B5 災害支援 災害支援×ここまで活かせる赤い羽根

〈11:00 ~ 11:15〉 15分 休憩

11:15 ~ 12:30 75分 **全体会**
「令和6年度の共同募金運動に向けて
~各分科会のキーワードから」

12:30 **閉会**



全体会 7/3水 | 13:00 ~ 15:25 (145分)

オープニング

13:00 ~ 13:15 (15分)

主催者あいさつ・オリエンテーション

鼎談

13:15 ~ 14:15 (60分)

「つながりをふたたび ~コロナ後に再構築したい地域とは」

- 地域では、コロナ禍を経験したなか、さまざまな課題が顕在化してきました。複合化、複雑化した支援ニーズに対して、地域の多様な主体が連携して、継続した関わりを持つことが求められています。
- 共同募金は、地域に根差した助成と募金の循環で成り立つ「じぶんの町を良くするしくみ」として、地域のつながりのなかで課題を解決する機能を持っています。
- 地域で新たな課題が顕在化するなか、今こそ我々は、活動を実施する立場、募金活動に協力する立場、寄付する立場、そして、市民に活動への参加を促す立場のそれぞれが、参画の「場」である共同募金運動を通じて、コロナ後に再び創りあげていきたい地域像をともに描いていく必要があります。
- については今回、5年ぶりの地方開催となる全国ミーティングにおいて、地域における参画の場（プラットフォーム）としての共同募金をあらためて見つめる、鼎談を開催します。

[講師] 和田 敏明氏（ルーテル学院大学 名誉教授） 栗林 知絵子氏（豊島子どもWAKUWAKUネットワーク 理事長）
村木 厚子（中央共同募金会 会長）

休憩（10分）

事例共有

14:25 ~ 15:25 (60分)

「信州から考える赤い羽根」

- 共同募金は、地域でいちばん身近な課題解決のプラットフォームでありたいと考えています。
- 共同募金が地域でプラットフォームとしての存在感を発揮するためには、寄付の出し手と助成の受け手双方がつながりあう、循環のイメージを醸成していくことが欠かせません。
- ここでは、信州から、助成と募金がつながって課題解決に力を発揮した事例をご紹介します。

[講師] 内山 二郎氏（長野県長寿社会開発センター 理事長） 上野谷 加代子氏（同志社大学 名誉教授）
高橋 良太氏（全国社会福祉協議会 地域福祉部長）



分科会 7/3水 | 15:45 ~ 17:45 (120分)

分科会 A1 基礎

新任職員向け分科会

～共同基金きほんの『き』～

社会福祉協議会と共同基金会は、地域福祉推進という共通の目的を持っています。

ここでは都道府県共同基金会、市区町村共同基金委員会の新任職員向けに、その特性や意義をお伝えします。

寄付と助成の両方を行う運動として、多くの人や組織が介在するプロセスのなかで助成により課題解決していくことの意味を考えていきます。

グループワークは、参加者の業務を通じた疑問、質問をお寄せいただく機会としたいと考えています。

[主な講師] 共同基金運動にかかわる研究者

主な対象



- 都道府県共募、市区町村共募委の新任共同基金担当者

ねらい・ゴール



- 共同基金の本質である「地域での循環」の姿を理解する。
- 助成事業を通じて、住民自身による課題解決を図っていくことの意味を理解する。
- 運動のプロセスへの参画を住民に得ることそのものが、地域福祉推進につながっていることを理解する。

分科会 A2 戸別募金

共同基金は誰のためのもの？

～これからも地域に支え合いの心をつなぐために～

共同基金は単なる「寄付集め運動」ではありません。

ここでは、共同基金の実施主体と住民との間で媒介となる協力者の理解が、募金運動の活性化につながった事例の紹介を中心に、共同基金運動の過程を通じて住民の地域への思いを形にしていくための運動のあり方について考えます。

[主な講師] 和田 敏明氏(ルーテル学院大学 名誉教授) 自治会関係者、共同基金担当者等

主な対象



- 戸別募金に悩みのある共同基金担当者
- 地区役員など地域で実際に募金活動に携わっていただいている方

ねらい・ゴール



- 戸別募金の寄付者である住民、募金活動に携わっていただいている方と共同基金の関係性を再確認し、信頼関係を構築することに方向性を見出す。

分科会 7/3水 | 15:45 ~ 17:45 (120分)

分科会 A3 活動見本市

地域共生社会づくりのため、協働の輪を広げよう

～信州ふっころプラン推進交流会 in 赤い羽根全国ミーティング～

活動見本市は“市”のように自分たちの活動について情報交換・交流する場です。

健康寿命、高齢者就業率、全国1位！信州の自慢♡

あなたの地域でも必ず役立つ、ピカッと光る活動をご紹介します！真似てもよし！つながってもよし！信州ではお馴染みの、さまざまな活動団体が出店する「活動見本市」を通じて“じぶんの町を良くする活動”に出会い、今後の取り組みのヒントを手に入れましょう。

今回は、長野県内の共同募金の助成活動を中心とした見本市として、共同募金の循環がじぶんの町を良くすることを体感いただきます。

[主な講師] 松田 道雄氏(尚絅学院大学 教授) 上野谷 加代子氏(同志社大学 名誉教授)
内山 二郎氏(長野県長寿社会開発センター 理事長) 長野県内のじぶんの町を良くする団体

主な対象



- 対話を通してじぶんの町を良くしたい人
- 福祉のまちづくりに興味・関心のある人
- じぶんの町のことを考え、行動している又はしたい人

ねらい・ゴール



- 共同募金を活用しながら、活動団体は自身の活動をPRして地域のファンを増やすこと、他団体とのつながりを作り活動に活かすこと、協働から広がりを考えることのきっかけにしておく。

分科会 A4 広報

「伝える」と「伝わる」は何が違うんだろう？

～明日から使える広報の極意～

あなたの「伝えたい」情報はちゃんと相手に伝わっていますか？

「伝える」と「伝わる」ことは違います。

ここでは、共同募金運動広報に携わっていただいていた8年、「伝わる」ことを考え続けてきたクリエイティブ・ディレクター／アートディレクター 沢田真氏の広報講座として、「伝えることの本質」を考えていきます。後半はワークも取り入れながら、各地で伝えたいことをいかに伝わるものにするかを実践的に学びます。

[主な講師] 沢田 真氏(電通デジタル クリエイティブ・ディレクター／アートディレクター)
宮澤 勇貴氏(千葉県共同募金会 業務班長)

主な対象



- 広報物の見直しをしたい担当者
- 新しい広報に挑戦したい担当者

ねらい・ゴール



- 共同募金運動の広報活動を行うにあたって、手法や技法より以前に押さえておくべき重要なポイントを理解すること。かつ効果的な技術も習得しながら、住民に伝わる広報素材の作り方を習得すること。

分科会 7/3水 | 15:45 ~ 17:45 (120分)

分科会 A5 SDGs

ローカルSDGsと共同募金

～共同募金運動を通じて考えるローカルSDGs～

さまざまな場所、さまざまな人たちがこれまで取り組んできた、共同募金の「じぶんの町を良くする」活動が、実は大切な暮らしを支え、誰一人取り残さない持続可能な地域づくりであったことと、俯瞰してみればそれがSDGs達成にもつながっていたことを理解いただく機会とします。

[主な講師] 新田 英理子氏 (SDGs市民社会ネットワーク 理事・事務局長)
毛利 葉氏 (とっとり県民活動活性化センター 理事長) 畠山 順子氏 (あきたパートナーシップ 理事長)

主な対象



- 都道府県共募・市区町村共募委担当者及び社会福祉協議会役職員
- 市民活動団体、自治活動や地域福祉活動に携わる人
- その他関心のある人

ねらい・ゴール



- 共同募金がめざすじぶんたちの町を良くするしくみが、地域の持続可能性を高めることにつながっていくことに気づき、誇りをもって活動を推進できるようになること。

分科会 A6 インクルージョン

協働の可能性は∞

～これからの地域課題を解決するアイデア出しをしよう!!～

制度では対応しきれない課題に、共同募金会や他団体との協働で取り組んでいる活動事例を共有しながら、助成を通じて支援すること、地域に活動の輪を作り出していくためのアイデアを考えます。

この分科会をきっかけに、協働の可能性をさらに広げてみませんか👏

[主な講師] 福澤 信輔氏 (文部科学省 総合教育政策局 男女共同参画共生社会学習・安全課 障害者学習支援推進室)
宮本 秀樹氏 (長野大学 特任教授) 長岡 秀貴氏 (侍学園スクオーラ・今人 理事長)
元島 生氏 (場作りネット 副理事長)

主な対象



- 都道府県共募・市区町村共募委担当者及び社会福祉協議会役職員
- 市民活動団体、自治活動や地域福祉活動に携わる人
- 中間支援組織などで協働を進めていきたい人
- その他関心のある人

ねらい・ゴール



- 課題に取り組む団体の可能性を広げる共同募金助成という考え方を学ぶ。
- 協働の可能性を探り、地域の発展を目指したつながりづくり。

分科会 7/3(水) | 15:45 ~ 17:45 (120分)

特別分科会

都道府県共同募金会正副会長懇談会

本格的な少子高齢化・人口減少社会を迎え、経済的な困窮、地域での孤立など、住民の生活課題が多様化、個別化、複雑化している現在、共同募金会は、民間の地域福祉活動の財源醸成のため、より一層その役割を発揮していかなければなりません。ここでは、共同募金を巡る環境が厳しい状況にあるなかで、共同募金会が期待される役割を果たすために都道府県共同募金会のリーダー（正副会長）は何をすべきか話し合う「リーダーミーティング」として開催します。

[主な登壇者] 村木 厚子(中央共同募金会 会長) 古都 賢一(中央共同募金会 副会長)

対象



- 都道府県共募 正副会長 ※この分科会は都道府県共募正副会長に参加を限定します。

ねらい・
ゴール



- 都道府県共募正副会長同士の意見交換を通じて、都道府県共募のリーダー像を共有します。



分科会 7/4(木) | 9:00 ~ 11:00 (120分)

分科会 B1 基礎

新任職員向け分科会

～共同基金きほんの『ほん』～

社会福祉協議会と共同基金会は、地域福祉推進という共通の目的を持っています。なぜ社協職員が共同基金業務を担当するのか、何を目標に、どのように業務を進めればよいのか等、新任職員がみな感じる疑問や日頃の悩みを、先輩の話聞きながら解消していただきます。共同基金運動の基礎から魅力、やりがい、楽しさについて、皆様とご一緒に考えていきます。

[主な講師] 粕谷 亜紀氏(栃木県共同基金会 主任) 今井 正貴氏(岐阜県共同基金会下呂市支会)
長野県内の共同基金委員会の「先輩」「後輩」の皆さん

主な対象



- 都道府県共募、市区町村共募委の新任共同基金担当者

ねらい・
ゴール



- 社協として共同基金に取り組む意味を理解する。

分科会 B2 募金

企業とつながる WIN-WINな関係を築くコツ

～企業やはたらく人のホンネとアプローチの仕方～

戸別募金が減少するなか、地域に所在する企業による募金協力への期待が集まっています。そして、共同基金ではこれまで、企業募金、職域募金にとどまらず、寄付金付き商品企画や企業の社会貢献活動への協力など、さまざまな形での協働が試みられてきました。

ここでは、企業との協働事例を通じて企業側の担当者のホンネを聞きながら、企業活動と連携しながら、共同基金にも、企業にも、双方に意義のある社会貢献活動としての募金協力とはどのようなものなのかについて考えます。

[主な講師] 長野県内外の企業関係者、共同基金担当者等

主な対象



- 都道府県共募・市区町村共募委担当者及び社会福祉協議会役職員

ねらい・
ゴール



- 企業に対して、企業の思いや考え方を踏まえたうえで協力を求めることで、単なるお願いに留まらない協働関係を築くことにつながることを学ぶ。

分科会 7/4(木) | 9:00 ~ 11:00 (120分)

分科会 B3 助成

じぶんの町を良くする共同募金の助成とは

～さまざまな事例からヒントを探そう～

共同募金は地域の誰もが気軽に活用することのできる活動資金ですが、助成先の固定化や助成プログラムのマンネリ化が長年の課題となっています。

地域生活課題が山積する中で、共同募金は、身近で柔軟に活用できる活動資金として、また、新たなつながり(協働の輪)を広げるしくみとして無限の可能性を持っています。

ここでは、全国の取組事例を通じて、じぶんの町を良くする助成について考えます。

[主な講師] 高橋 潤氏(長野県みらい基金 理事長)
戸井田 由奈氏(市民協働サポートセンターまんまる センター長)
星野 久子氏(群馬県共同募金会 課長(助成担当))

主な対象



- 助成の見直しを考えている担当者
- 助成先について悩んでいる担当者
- 新たな活動団体とつながりたい担当者

ねらい・ゴール



- 自分の地域の活動やキーパーソンを発掘すること。
- 市区町村社会福祉協議会等の伴走支援のスキルアップを図ること。

分科会 B4 広報・重点助成分野

募金の意味が伝わる広報 ～重点助成分野の活かし方～

共同募金会では、令和6年度より、具体的な切り口から共同募金助成を可視化する方策として、「重点助成分野」を設定し、共同募金の助成を活動分野で焦点化して示すこととしました。

誰をも受け入れ、誰もが参加できる地域づくり(多様性の尊重)、健康でいきいきと暮らし続けられる地域づくり(高齢者)、生きづらさを抱える子ども・若者とその家族への支援(児童・青少年)、災害ボランティア活動、防災・減災活動への支援、生活に困難を抱える人たちへの緊急支援、の5分野を設定し、広報活動に活用していきます。

ここでは、地域においても助成内容を重点助成分野に寄せて見せることで、寄付者により実感を持っていただけるようにしていく、今後の共同募金広報のあり方についてお伝えします。

[主な講師] 沢田 真氏(電通デジタル クリエーティブ・ディレクター/アートディレクター)

主な対象



- 共同募金助成の見せ方に課題を感じている共同募金担当者

ねらい・ゴール



- 地域での広報に活用できるように、分野のポイントを押さえて表す広報について学ぶ。

分科会

7/4(木) | 9:00 ~ 11:00 (120分)

分科会 B5 災害支援

災害支援×ここまで活かせる赤い羽根

～「お金の心配」を「支援の限界」にしないために～

被災地における支援は、行政機関による公的な支援のほかに、社会福祉協議会やNPOなどの民間活動による支援が欠かせません。

ここでは、災害時の民間支援活動とその活動を支える共同募金の役割について、令和元年東日本台風災害や能登半島地震災害などの実際の支援活動を踏まえて理解を深めます。また、日頃の地域の防災・減災や災害時支援の備え、現場の協働と広域的な協働などについて考えます。

[主な講師] 石井 布紀子氏(さくらネット 代表理事) 前原 土武氏(災害NGO 結代表)
中谷 隆秀氏(長野県生活協同組合連合会 事務局長)
古越 武彦氏(長野県NPOセンター 事務局次長)
山崎 博之氏(長野県社会福祉協議会 まちづくりボランティアセンター 主査)
山内 秀一郎(中央共同募金会 基金事業部長)

主な対象

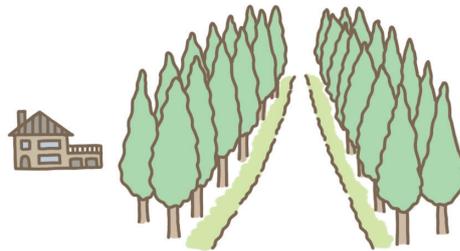


- 共同募金の資金が災害支援に役立てられている内容について知りたい共同募金担当者・社会福祉協議会役職員
- 災害支援や地域の防災・減災について知りたい人

ねらい・ゴール



- 災害時の共同募金会の資金の働きを理解することで、万一の災害時の迅速な動きや支援活動につなげていく。
- 災害時の共同募金の役割を正確に理解し、地域に伝達することで、共同募金への理解につなげていく。
- 仕組みや資金を連携・協働に活用することで支援の可能性が広がることの理解につなげていく。

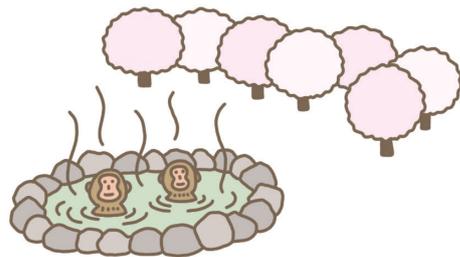




全体会 7/4(木) | 11:15 ~ 12:30 (75分)

「令和6年度の共同募金運動に向けて ～各分科会のキーワードから」

- 2日間の全国ミーティングでは、参加者として、今年度の運動に生かせるヒントをいくつか得ることができたでしょうか。
- コロナ後の皆さんの「じぶんの町」を、共同募金を通じてどのような形にしていきたいか、イメージを描くことはできたでしょうか。
- エンディングの全体会では、各分科会で出されたキーワードをもとに、持続可能な共生社会づくりに向けて共同募金にはどのような可能性があるのか、皆さんで振り返りながら考えていただきます。



実行委員会

山田 翔太（御代田町共同募金委員会）
荻原 宏樹（上田市共同募金委員会）
小野 紘彰（東御市共同募金委員会）
味澤 俊介（岡谷市共同募金委員会）
山田 伸一（伊那市共同募金委員会）
百瀬 光輝（松本市社会福祉協議会）
市川 渉（塩尻市共同募金委員会）
寺島 祥正（長野市共同募金委員会）
小野 貴規（長野市社会福祉協議会）
湯本 健太（須坂市共同募金委員会）
荒井 翔（飯山市共同募金委員会）
吉沢 光規（長野県社会福祉協議会）
高橋 つぐみ（長野県社会福祉協議会）
戸田 千登美（長野県長寿社会開発センター）
阿部 今日子（長野県NPOセンター）
戸井田 由奈（市民協働サポートセンター まんまる）
高橋 良太（全国社会福祉協議会）
阿部 陽一郎（中央共同募金会）
塩澤 宏之（長野県共同募金会）



お問い合わせ先

■ 参加申込みについて

名鉄観光サービス株式会社 長野営業所（担当：原、小泉）
〒381-0038 長野県長野市東和田857-1 信州名鉄長野ビル
TEL: 026-244-8557 FAX: 026-217-8151
E-mail hane2024-nagano@mwt.co.jp
受付時間 月～金 9:30～17:30 土日祝日休業
※問い合わせは、参加申込サイトからもお寄せいただけます。

■ ミーティングの企画内容について

社会福祉法人 中央共同募金会 運動推進部（担当：熊谷、笈川、小林、城）
〒100-0013 東京都千代田区霞が関 3-3-2 新霞が関ビル
TEL: 03-3581-3846 FAX: 03-3581-5755
受付時間 月～金 9:30～17:30
E-mail suishin@c.akaihane.or.jp